

# ピアノを介した“つながり”を意識する学習設計 — ミュージックトレインの試み —

岡田 泰子\*・今村 初子\*・葛谷 悦子\*・田中 智子\*・富沢 杏安音\*  
丹羽 美枝子\*・橋本 亜紀\*・村瀬 潤子\*・森 摩樹\*・和田 早苗\*・杉山 祐子\*

## Connection-conscious Learning Design Through Playing the Piano: Attempt of Music train

Yasuko OKADA, Hatuko IMAMURA, Etuko KUZUYA, Tomoko TANAKA,  
Ayane TOMIZAWA, Mieko NIWA, Aki HASHIMOTO, Junko MURASE,  
Maki MORI, Sanae WADA, and Yuko SUGIYAMA

ピアノの技術習得には練習が欠かせない。練習は、個人練習が基本となり、ともすれば学生たちは孤独な練習過程により、音楽を学ぶ楽しさを味わう本来の目的を見失う可能性も否定できない。本学幼児教育学科2年次では、ピアノ技能の授業「音楽Ⅱ」を行っている。授業内容は、1年次に培った鍵盤楽器（ピアノ）の技術習得を基礎に、更に弾き歌いのレパートリーの拡充など、保育者を志す学生たちに必要な、表現技術の習得を目指している。奥（2009）は、養成校でのピアノ指導は、表現領域に則し、単に技能の向上にとどまらない、豊かな音楽的成長と人格的成長につながるものが求められてくると述べている。そこで、2016年度では「つながり」を意識した学習設計を実践し、仲間との協働演奏に取り組んだ。その結果2015年度にみられた履修者減に歯止めがかかった。

キーワード：ピアノ、つながり、小節、協働、応援

### I. 問 題

本学幼児教育学科2年次における専門科目「音楽Ⅱ」は選択科目である。2015年度前期履修者は94名であったが、後期より61名と激減した。その理由を調査したところ、履修しなかった学生33名のうち24名から回答者が得られた。最も多い回答（複数回答）は「選択科目だから」で12名であった。「ピアノが苦手だから」の回答も6名あった。選択するメリットは意識しながらも、学習目的以外の理由を挙げていることから、学生自身がより履修したいと思える魅力ある授業展開が不可欠であると考え。本研究

では、保育者の資質に必要な、仲間とのつながり（協働）を意識する機会を、ピアノ演奏を通して与えることを試み、履修者離脱の防止を目指した。具体的な手立てとして、「ミュージックトレイン」を実施し、学生一人ひとりが自分の存在を『部分』と『全体』で捉える機会として実施した。

### II. 方 法

対象者：音楽担当教員11名(2016年4月5日)  
音楽担当教員11名、幼児教育学科2年受講生101名(2016年7月12日)

\* 短期大学部幼児教育学科

日時・場所：2016年4月5日（火）9:10～10:40  
10102教室  
2016年7月12日（火）9:10～10:40  
グレースホール

演奏曲：バイエル102番（2016年4月5日）  
ノクターン OP9-2 ショパン作曲  
（2016年7月12日）  
手続：表1のとおり

表1 ミュージックトレインの取り組み内容

日 時	内 容	自由記述対象者
2016年4月5日	音楽担当教員が1小節ずつ交代でデモンストレーションを学生に鑑賞させる。また、各教員からの振り返りを自由記述し、考察する。	音楽担当教員
2016年7月12日	対象者（33名）が、ミュージックトレイン（34小節からなる楽曲を学生1名につき1小節担当。その小節を連結し、1曲を完成させる）を発表する。また、対象者の取り組みの過程および発表に関する振り返りを自由記述させ、考察する。また、音楽担当教員および受講学生からの振り返りを自由記述し、考察する。	幼児教育学科2年実践学生、音楽担当教員、幼児教育学科2年受講者

### Ⅲ. 結果と考察

#### 1. ミュージックトレインの動機づけ

2016年4月5日実施した音楽担当教員によるデモンストレーションでは、実践した音楽担当教員により、以下の振り返りをを行った。その結果1)演奏者、2)学生、3)教員の3つの視点に分類することが出来た。

##### 1) 演奏者の視点（自由記述）

- ・演奏として完成させるには、音楽的な要素を含め、演奏上のさまざまな要素を共有する必要があると感じた。
- ・スピードを（テンポ）同じにしようと弾いていない時も体でリズムを意識していた。
- ・人と人のつながり目をスムーズにしようと前の人の演奏を分析（強弱・音色）していた。
- ・それぞれの分担箇所、個性があって面白いと思った。（同じ人が弾く演奏には感じられない個性集団演奏でワクワクした）
- ・「息を合わせる」楽しさ、人を理解する心。
- ・スリリングなドキドキ感が良い。
- ・アンサンブルの楽しさを味わえた。
- ・普段の練習曲が皆で分担して弾くことで、新鮮で楽しかった。
- ・いつもは一人で弾く曲を1小節ごとに割り当てがあり、順番に弾くということで、横の繋がりを感

じ、仲間を意識し合えると思う授業であった。次の演奏者に弾きやすいように渡す配慮が自然に出来た。

- ・バイエルという短い曲でも、チェンジしながら弾ききる事により、音楽を共有し合える楽しさや面白さ等、達成感を感じた。
- ・先生（演奏者）によって、音楽の感じ方や音の大きさ、雰囲気も違い、楽しく聴きながら弾けたと思う。
- ・バイエル102番を11名が1小節ずつ担当し、演奏する事によって、学生に何が伝えられたか。20小節の曲を1小節ずつ区切り、演者同士でつなげていく。全てに音の列車<ミュージックトレイン>を譜面に沿ってピアノと電子ピアノ2台ずつで演奏したところ、1人で演奏する時とは比べられない程、音の横の流れを耳で聴く事に集中した。小節線を意識しながら、前の音からスラーやタイでなめらかに入る時はあたかも指同士がつながっているよう触感（タッチ）に気を付け、また拍感がずれないように、より正確に数えて左手の伴奏形のリズムを刻む事を心がけた。ピアノと電子ピアノの響き方やボリュームの違いはあるものの、1曲を小節毎につないで弾く事が演者の個性を引出し、普段とは全く違った聴き応えのある1曲となり、新鮮な印象を与えられたであろう。
- ・一人で1曲を弾く時とは違い、他の方が弾いている時も、一緒にフレーズやメロディーを頭や体で

感じながらテンポを刻み、自分のところだけでなく、他の人の演奏の時程、音楽を感じて集中していた様に思う。

- ・弾き繋ぐという緊張感を楽しむ。その曲の流れを止めないようにするには、音楽的要素（拍、リズム）をしっかり把握すること、自分のパート以外も一緒に心で奏でることを感じた。
- ・自分のわずか1小節のパートから、素敵な作品が生まれることで、自分の力を実感することが出来、つながる、つなげることの大切さを感じることができる。
- ・曲をよく知らないと、なかなかとっつきにくいかも知れない。
- ・小節の中にタイや休符がある時のつなぎ方が難しい。
- ・リズムたたきや歌つなぎなどで、つなげることに慣れるのも良いと思う。
- ・教員間の連帯感が高まったと感じた。

## 2) 学生の視点

- ・学生達は先生の演奏を聴くのを楽しみにしていた。その意味でも、とても興味をもって聴いていたと思う。
- ・4/12、4/19の授業内で学生達に「ミュージックトレイン」の話題にしたが4/5に見たことが、各自頭の中で結びついている様子であった。自分達がこれから行うこの「ミュージックトレイン」が具体的にどのような内容なのか、言葉だけで説明するよりも理解がしやすかったようであった。また、4/5教員がデモンストレーションを行う際、ピアノまたはキーボードが教室内の前後の位置が分散していたため、学生達は目線で位置を追いながら聴くことが出来たため、何をどうしているのか、イメージがしやすかったように感じた。

## 3) 教員の視点

- ・集団で一曲を作り上げる喜びや達成感を味わわせたい。先日のモデル演奏では、たとえバイエルといえども、演奏する側はかなりの集中力や緊張感があった。
- ・一人抜けると、音楽がつながらない、迷惑をかけてしまうという責任感を感じてもらいたい。
- ・難しい曲の一部でも挑戦することで、普段の弾いている曲が、音取りが楽になった。と思ってもらえたらと思う。弾く側も聴く側もドキドキするミュージックトレイン。全員が乗車して動くこと

を願っている。楽しみである。

- ・いつも学生に弾いているバイエル102番。弾き慣れている曲であるが、11人で繋げて弾くとなるとやはり緊張と、楽しみもあった。私の担当した「D」の部分は森先生と2人であった為、3回も番が回り、とてもバタバタと順番を回していく感じで、あっという間に終わってしまった。担当する小節が沢山あると慌ててしまうが、それも楽しさの1つだろう。弾いている方だけでなく聴いている方も楽しいのではないかと思う。今回はバイエルだったが、学生が大曲に挑むのはとても面白い取り組みだと思う。担当するのが、1小節くらいならプレッシャーも少ないし、かなり楽しいのではないだろうか。
- ・皆で繋げるとなるとテンポの流れをかなり気にすることとなる。1曲弾くときに、弾けるところだけ速くなったり、盛り上がると速くなったりする学生がいるが、1人ではなく皆で弾くとなるとテンポを一定に繋げようと意識するのではないだろうか。
- ・私が担当しているグループは比較的ピアノが弾ける学生が多い。まずは7月に歌いまくろうの発表がある為、それに向かって頑張ってくれるのだが、それが終わったとたん来なくなる学生が増える傾向があった。私の講義の取り組みにも問題はあったのだろう。このミュージックトレインは上級者クラスにとってはうってつけの方法だと思う。前期は歌って踊って皆で発表し、後期には皆で1曲を作り上げるという明確な目標がある方がやはり努力しやすいし、弾ける学生たちにすればそこまで大変な事ではないので、それが嫌で講義に来なくなる、などということも無いのではないかと思う。ただ、難点はそれがプレッシャーになってしまい、逃げてしまう学生や面倒くさくなって講義を途中で辞めてしまう学生が出てこないかである。元々ピアノが弾けない、2年になってもバイエルが終わっていない学生にとっては、正直大変なのではと思う。バイエルをなんとか終えることが出来たら、1曲でも2曲でも弾き歌いに取り組んだ方が良いのでは、とも思う。だが1小節けば大曲が出来上がる、それが楽しみと思ってくれて頑張ってもらえれば良いと思う。
- ・与えられた1小節を弾くのは、その音楽全体をと

らえた上で演奏しなければならないと思う。音楽の流れに乗って、その小節だけを演奏するのは一人で弾くより難しいと思った。曲全体を理解して、その小節を演奏しなければ、部分と全体を意識することが出来ないと思う。その意味で、学生の能力を考えて選曲を考えていく必要があると思う。

- ・実験的な取り組みで4台のピアノ（しかも離れた場所）を使って学生にもなじみのバイエル102番をリレー形式で1小節ずつ弾いた。まず耳が変わった。それは、より人の音を聴くということである。その曲の流れを耳で追いながら、自分の弾く場所まで耳でつなぐ。音の聞こえ方が変わることによって、1曲を流れて捉えられるようになると思う。（自分1人で弾くと、自分のペースで弾けない所は止まって弾き直すことが出来るが、皆で弾くとそれが出来ない。）とても良い経験が出来ると思う。
- ・1小節を与えられた学生が、全体からの自分の音への必要度、前後の音のつながりへの集中、1曲を全員でつないでいく時の気持ちの高まり等、どのような演奏になるのか、今後の指導の課題だと考える。
- ・一つの小節を任される事により、責任感も感じられ、全員で1曲演奏をやり遂げる経験をする事によって学生同士のまとまりも出るのではないかと思う。
- ・一つの楽曲を皆で仕上げることで、達成感や喜びを共有できる。自信、積極性が生まれると思う。
- ・任された責任感から取り組む練習に工夫が必要である。練習時間を増やし、練習を継続する。その楽曲を聴いて知る。わからないところを聴いたり教えたりコミュニケーションが生まれると感じた。
- ・ピアノが苦手な学生に、ハードルが高いかもしれないが、一人完奏とは違う楽しみを味わって欲しい。
- ・「千里の道も一歩から」のごとく、1つ1つを大切に組み合わせることで、全体がみえてゴールに到達できることを実感して欲しい。

学生への動機づけを目的にデモンストレーションを行ったが、我々指導者側も演奏者、学生、教員の視点に立った気づきを与えられ、学生、教員相互に「ミュージックトレイン」に対する期待、モチベー

ションが高まったと言えるのではないだろうか。

## 2. 実践がもたらした影響

7月12日に実施されたミュージックトレインでは、(1) 実践学生からの振り返り、(2) 担当教員からの振り返り、(3) 受講学生からの振り返り、の3点について、考察した。

### (1) 実践学生からの振り返り

以下のように実践学生、音楽担当教員および受講学生によって振り返りをおこなった。その結果、実践学生からは、1) 自分自身、2) 他者の2つの視点に分類することが出来た。また、音楽担当教員からは、指導者の視点でのコメントがみられた。また、受講学生からは、今回の演奏を鑑賞しての評価と同時に次回への自覚がうかがえるコメントがみられた。

#### 1) 自分自身への視点

- ・今日弾いてみて、練習みたいにならなくてよかったが、大きな間違いはなかったのがよかった。1小節だけだったけど、弾いてみてよかった。ハラハラしたが、感動もあった。楽しく弾くことができたのがよかった。
- ・緊張して落ち着いていられなかった。ペダルはなかなか難しく、踏むタイミングや長さなどの調整が大変であった。これからも練習を頑張りたい。
- ・今まで練習をたくさんした。緊張したが、緊張もたのしめたと思った。ミスすることなくやりきれて本当によかった。
- ・今まで練習してきた中では、片手すら曖昧だったが、練習よりは上手くできたので良かった。次からの試験などでは、さらに練習していきたい。
- ・グレースホールでみんなの前で弾いてみてとても緊張した。
- ・一人1小節なので、そればかり集中して練習して、ノクターンをある程度弾けるようになったと思う。
- ・失敗しないで出来た。
- ・本番では、やはり弾けなくなるなどと思った。左手が少し弾けなかったのが、人前でも弾ける練習にしていきたいと思った。止めることはなく弾けてよかった。
- ・練習していく内に弾けていく感じがうれしかった。

- ・難しい所だったけれど練習したらできるようになってよかった。
- ・とても緊張した。
- ・練習では弾けていたが、やはり緊張でとまってしまった。練習量も大切だけど、人前で弾く事に慣れる事も必要だった。ペダルを踏んで弾く事は初めてで良い経験になったと思った。
- ・練習の時よりうまくできたと思った。ペダルを踏むのを忘れた。
- ・練習の時とは違う緊張感があり、全然弾けなくて悔しかった。「どうしよう」という思いが強くもっと練習していくべきであると思い、自分の甘さを感じた。難しくできないと思っていたがやってよかった。
- ・家のキーボードはペダルがなく、練習できなかったのでピアノ練習室を利用し空き時間に練習した。
- ・本番、どのように弾いたのか分からないほどすごく緊張した。手がふるえそうで、でも音も間違えず弾けて本当によかったと思う。沢山練習したかがあった。
- ・本番は、はじめて合わせた。とても緊張した。しかし、しっかりと間違えずに弾くことができてよかった。最初は頭の中が真っ白になってしまったが、なんとかできた。次回うたいまくろうがあるので頑張りたい。
- ・緊張で手がふるえたが、最後まで弾き終えることができてよかった。緊張しすぎてペダルをふんだかどうか、覚えていないが、止まることなく弾くことができてよかった。
- ・練習通りにはいかず、緊張で手がふるえて上手く弾けなかった。自分で納得できなかった。
- ・初めてグレースホールで弾いて、すごく緊張した。途中止まってしまったけど、最後まで弾くことが出来てよかった。
- ・緊張して、練習の成果をだせなかったのが残念であった。
- ・今日、グレースホールでミュージックトレインをしてみて、やはり皆の前で弾くということですごく緊張した。
- ・個人的にはペダルを最初につけるのを忘れてしまって残念であった。しかし、すぐに気づいて、つなげようという気持ちで弾いていくことができたので良かった。

- ・練習してきた通りに弾くことができたのでよかった。リズムの速さを合わせるのが難しかった。
- ・とにかく緊張した。今書いている手もブルブルふるえている。しかし、弾き終えた時、すごく嬉しかった。楽しかった。

## 2) 他者への視点

- ・初めてノクターンを弾くメンバー全員で合わせてみて、みんなで1曲弾き切った時はうれしかった。
- ・みんなでつなげようという思いで精一杯弾くことができた。止めずに間違えずに弾けてよかった。こんなに大勢で1小節ずつ弾いてつなげることや実際に通して最後まで曲が終わると本当に感動した。
- ・最初と最後がとてもきれいで初めて全体を聞き、皆とつなげるとこんなにきれいなのだとびっくりした。
- ・一人ひとりが練習の成果を出せたと思う。自分が弾き終わると、皆がよかったよ、とむかえ入れてくれて安心した。みんながひきおわるまで、応援しながら待つことが出来、みんなで達成感を味わえて本当によかった。
- ・はじめて、もう一つのグループとも合わせて最初から最後まで聴けてよかった。弾く音を忘れることもあり、次の子につなげるのが雑になってしまった。みんなでつなげて弾くことが楽しいとミュージックトレインを通して感じる事が出来てよかった。
- ・みんなで一曲をつくり上げていく中で、支えたり、フォローしたりとしていて、これが続いていくことで、一体感がうまれると思った。
- ・つなげることが全体にうまくいった、いかなかったがあつたが、みんなが一つになって出来た瞬間だったと思った。
- ・みんなでつなげていくのが楽しかったし、最後終わった時、鳥肌が立った。はじめは、どうして弾かなければいけないのかと思っていたが、皆とつなげていくうちに頑張ろうという気持ちが強くなった。後半グループと共に、みんなと一つのもので出来てよかったと思った。
- ・みんなの集中しているのがすごく伝わってきた。個人的には練習のときのようにできず、強引に弾いてしまったのが悔やまれるが、最後の2人が

とってもすてきにしてくれた。全体を聞いていると、練習頑張っていたなと感じられた。ミュージックトレインは、一人が完璧でも全員が弾けないと一曲にならない事を感じた。

- ・繋がっているのはすごいと思い、きれいだった。これは、みんなで作り上げるものなので、「迷惑をかけないように」「前の子からのつながりが上手くできるかな」「〇〇ちゃんががんばれ」と一緒に一曲を作り上げることの素晴らしさを感じた。私たちのチームはピアノの経験が少ない人があり、初めはこんな難しい曲無理だと思っていたが、何とかみんなで最後までつなげられてよかった。
- ・全体的にも、すごかったし、みんなで協力して弾くのはすごくいいと思った。
- ・前の子の音をよく聞いて上手に入ることができてよかった。  
しかし、みんなはピアノに一生懸命向かい練習してきた成果があった。緊張で弾けないというのは子どもの前では理由にならないので、緊張しないようにしたい。全員で1曲を弾くというのはとても貴重な体験なので忘れずにしたい。
- ・今回初めて皆でつなげて協力し、1つの曲を完成させて、すごく緊張した。緊張しすぎて自分が最後まで間違えず弾けたのか忘れてしまったが、弾ききったことはできたのでよかった。1小節だけだったが、すごく難しく、音域も幅が広く、指づかいも覚えるのがすごく大変であった。しかし、皆で1つの曲を完成させる達成感は、とても良いものなので、こういう機会は、とても良いことだと思った。
- ・1つの小節をみんなでまとまって、1つの音楽にするのは、とてもすてきで、絆が深まったと思った。
- ・音のつながりを楽しんで弾くことができたので良かった。
- ・一人ひとりがまとまっていて良かったと思った。間違えてしまっている部分もあったが、一人ひとりがつなげようという気持ちで最後まで頑張っていて良かったと思った。全部がつながるとこんなにまとまって1曲になっていてすごいものになるのだと思った。1つの曲を皆というのはあまりでできることではないので、良い経験になったなと感じた。とても楽しくできて良かった。
- ・とぎれてしまう部分や、とまってしまう所があっ

たので残念であったが、次につながるように弾けてみんな頑張っていたので良かったと思った。

- ・初めてみんなでつないでみて、緊張したが、うまくいってよかったと思った。自分の番では音を間違えてしまったけれど流れを止めずに弾くことができた。みんなでつなぐことは難しいと思ったが、協力して一曲を弾き終わることができてよかった。
- ・練習通りには弾くことはできなく、途中で止まってしまったところもあったが、次の人につなげることはできたと思うので良かった。自分が弾くのは1小節だけだったが、全体を見るとすばらしかった。みんな1人ひとり精一杯弾くことができていたので感動した。ミュージックトレインはみんなが次の人につなげたいという思いやりの気持ちが必要だということであらためて思った。
- ・練習ではできていたはずだけに悔しかったが、終わりよければすべて良し、であると思った。練習の時の様子を見てほしいと思った。全体をみると、全員でつながって、すごかったなと感じた。自分のパートは失敗に終わったが、みんなで1つの曲を、という目標は充分達成できたと思った。
- ・みんながみんな1小節のために、どれだけの時間練習してきたのかと思うと34小節でなりたっているノクターンという曲がとても壮大な曲に聞こえた。1人が弾いているという音楽ではなく1小節ずつ人それぞれの個性がでていてそれがまた味のある素晴らしいものとなったのではないかと思った。
- ・皆が繋いでくれた小節を、最後上手く決められる様、プレッシャーの中頑張る事が出来た。山本さんとの連携も恐らく丁寧に繋ぐ事が出来たと思うので、とても良かったと思った。今回の事で葛谷グループが一体となったと思った。今度は歌いまくろうなので、協力して、次も楽しかった、頑張ったと思える様な、劇にする事が最高の目標だと思った。それに向けて数少ない練習を大切にしていけると良いと思った。

以上のように、実践した学生は、わずか1小節ではあったが、練習にはかなり努力が必要であることを認識した様子がうかがえる。また、本番では緊張感と集中力をもって取り組む姿勢がみられ、自分の

役目を果たした達成感や喜びを得られたのではないだろうか。また、他者への視点のコメントが自分自身への視点のコメントの数を上回り、この結果からも学生が周りの仲間とのつながりの中で協働出来たことがうかがえる。

## (2) 担当教員からの振り返り

- ・楽譜が配布されても、どのように取り組んだらよいか、イメージできない学生もいて、一人ひとりの力量やレッスンへの姿勢がよく見えた感がある。発表まで、両グループとも5回のレッスンだったが、5回目に全体を通して練習する時間をつくる事ができ、とても効果的だったと思う。全体の中の自分を確認でき、他の演奏や頑張りが刺激となり、責任感や協調性を養うことができたと思う。また、自分も頑張らなくてはいけないという気持ちや、あの人に弾けるなら自分もといった思いが、その後の意欲的な取り組みを牽引できた。はじめは敬遠していた学生が、練習のポイントをつかみ、とても良く練習してくるようになった。上達を感じ嬉しそうにしている姿が印象的だった。
- ・とても難しい曲にチャレンジするという事で、今日の本番はどうなるか心配したが、本番の前に早くから練習室に集まり、楽しそうに練習する学生達の姿があり、とてもほっとし、楽しみであった。本番は緊張しているように見え、つまりつまりの学生もいたが、想像していたよりしっかり繋がっており、最後の二人もとても良く弾けていて、終わり良ければ全てよしということで、全体的にとっても良かったと思った。今日までとても頑張ってきた学生の姿が目につかんだ。私のグループの学生たちも、歌いまくろうが終わったばかりであったが、ミュージックトレインって私たちもやるのね！？最後に発表だからばっちり弾きたい！と話している子たちもいて、本来ミュージックトレインを始めたねらいを達成しつつあるかと感じた。後期も目標をもって、講義をやめることなく来てくれるよう、こちらで学生を盛り上げながらレッスンをしていけるようにしたいと思う。
- ・日が迫るにつれて、意識が高まり仕上げようというモチベーションが上がった。仲間の中での自分の存在を確認できた。リレー形式で、バトンの受け渡しの大切さを感じていた。一人ひとりの責任

感や存在感を再確認できた。そこに居合わせた全員が見守っている雰囲気がとてもあった。

- ・学生一人ひとりが責任感を感じていた。終わり方（次に渡す時）丁寧さや投げやりさが出て、興味深かった（その人の現在の気持ちが出たのだろうか）。聴いている学生が、真剣に応援しているようであった。次のグループの参考になり、刺激があつてよかった。最後までご指導がとても良かった。
- ・自分の担当の小節だけでも、精一杯な学生達が、つなげて弾けるのだろうか心配してレッスンをしてしたが、流れやテンポの大きなずれもなく、次の人へ受け渡しをする、前の人から受けとるという意識を持ってできたと思う。終わった後、自然に拍手がわき、どよめきもおこった。感動した。一人ひとりの努力が実った成果だと思う。レベルの少し高い曲にチャレンジするというのも大変であるが、出来た時の喜びは大きいし、やればできるという自信につながるのではないかと思う。とてもよい取り組みであった。
- ・まさに「トレイン」としてつながっていて、とても楽しめた。思っていた以上に弾けており、一人ひとりの努力が素晴らしいと思った。それぞれが集中してつなげようとする意識がよく伝わってきた。テクニク的に難しくても、練習を積み重ねれば弾けるようになるということを改めて思った。それぞれに練習を工夫したと思うが、具体的に知りたいです。しっかりショパンらしく聴こえ、特に最後の3小節がきれいでノクターンであった。
- ・予想していたよりも、いろいろな意味で感じたことも多く、またとても素敵な試みだったと思える演奏となった。予想どおり、人と人とのバトンタッチがスムーズにいかない場面もあり、1小節の流れを止めずに弾ききれない学生もあった。しかし、少々流れが進んだり止まったりしながらも、各学生の個性のにじみ出る、バラエティーにとんだピアノの音色が次々につながっていくのがパズルのようで、演奏の間中、優しい時間が続いていた。共同作業をしている、皆で1曲作り上げたという実感がとてもあったように見受けられた。ベースのみになってしまった数小節についてはとても残念であった。次回以降の学生が、その事を

感じて自分はそうならないようにと自発的に思っ  
てくれているとよいと思った。

- ・1曲が途切れる事なくよくつながったと思う。右手のメロディーが歌われている学生も多く、ノクターンの優美な雰囲気が存分にホールに響き渡っていた。左手の低音と弱拍の和音のとり方もあきらめずつかめていたので、曲の成り立ちをよく理解して弾けていたように思われる。前の小節から受けて次へ渡すという人から人へつなぐという形が充分に出来ていて技術以上に人を思いやる性格から、より音と音のつながりが表現されていた。指の動きの大変さにペダルまで使えなかった学生もいたが、ピアノの豊かな響きに助けられ和音の美しさとメロディーの滑らかさでカバー出来ていた。特に最後の2名はトレモロの細やかな動き、粒の際立ち、ペダルの踏み方、音の響きを聴くという点において、ショパンらしく美しく表現出来ていて素晴らしかった。振り返ってみて、学生全体において、難曲に取り組んだ事、1曲を弾き切った事は、決してムダではなく、この経験が人を思いやり、同じ方向へ協力し合って深まりあっていく良いきっかけとなればと望んでいる。
- ・緊張感の中、一人ひとりが集中して責任を持って取り組めた結果とても素晴らしいノクターンに仕上がっており、感動した。素敵なおショパンのノクターンを聴いた次のトレインの担当学生から「次は何の曲をやるの」とすでにやる気につながっているように感じた。そして、聴いている側にも良い刺激になっていた。特にこの1, 2週間の中で、更にながらばった事が演奏に表れていた。初めてのことばかりであったが、仲間通しで協力し合い、音楽を通して横のつながりを更に感じられたのではないかと思った。とても充実した90分の授業で、学生自身が一人では弾けない曲を皆で分担して協力すれば難しいショパンのノクターンを演奏できたという達成感を感じた。そして小節ごとに交替しているのだが、とてもスムーズにつながっており、メロディーを一人で弾いているかのように感じた所もたくさんあり、素晴らしかった。
- ・33人で1曲を完成させ、つなげられたこと、聴く側も応援する気持ちで聴いていた。曲がとても自然につながっていたので、みんなの心が1つになれたと思う。この曲に取り組んだメンバーも今後

この曲を聴いたときに、この取り組みが思い出されることであろう。学生時代にしかハードルの高い経験が出来ないと思うので、貴重な体験になったと思う。この中の誰かでも、この曲を少しさらってみようという子がいたらうれしい。以前、簡単な曲の方がいいと思ったのだが、せっかくの体験なので、ぜひ名曲でと思えた。

- ・どうなることかと心配したが、学生はよく頑張ったと思う。ミュージックトレインのコンセプトを考えると何とかつながって良かったと思う。一つの曲を皆で演奏する緊張感が伝わってきた。ただ弾くだけでなく、もっと音楽的にノクターンを表現できると良いと思う。この経験が今後につながっていくことを期待したい。

以上のように、指導者である音楽担当教員からは、指導に関わった実践学生の成果についての振り返りの他に、受講学生の見守る姿、聴き入る姿にもふれられる記述があった。これらは、演奏者が次々と入れ替わり立ち代りに交替するスリリングな場面や、小節が切れ目なくつながり、一つの楽曲になる緊張感、集中力が舞台から伝わってくる空気を表していると考察する。また、一人ではなく、仲間とのつながりの中で音楽を創り出すことから生まれる感動があったと言えるのではないだろうか。

音楽担当教員からの振り返りでは、学生の努力を認め、また発表においては実践する学生の気持ちを温かく応援、見守るコメントが多く記述された。これらは、4月に実施したデモンストレーションでの振り返りコメントから比較すると、指導者の視点を深める内容のコメントに変容したと言えるのではないだろうか。

### (3) 受講学生からの振り返り

受講学生68名について、自由記述により振り返りを行った。記述されたキーワードを挙げたところ、次のような内容が見受けられた。一番多い記述は、「よかった」という評価記述が43名あった。次いで「難しそうだ」と記述した学生は41名であった。また、「一人ひとり個々の大切さ」を記述した学生が38名、「次回頑張りたい」と記述した学生は35名、「止まらずに弾くことが大切」と記述した学生が26名であった。この結果から、受講学生は、実践学生



を高評価するとともに、次回は実践者となることをイメージし、モチベーションの向上や自覚芽生えていることがうかがえる。

### 3. まとめ

ミュージックトレインを取り組む中で、学生も教員も一体となりながら、1つの楽曲を完成させるプロセスを味わうことが出来た。その結果、2016年度後期履修者は107名中101名であり、5.6%の離脱者であった。2015年度35%であった離脱者の数字に歯止めがかかった。この結果は、ピアノの練習過程を単独でなく、仲間とのつながりの中で学ぶ機会に広げたことで、学生を決して孤立させない教育的配慮の成果であると考ええる。今後も学生の『部分』と『全体』を活かし、つながりの中で相互に学び合える授業展開を試みたい。

## 引用文献

奥 千恵子：保育者養成と演奏技法 — 保育指導としてのピアノ奏法 —. 四天王寺大学紀要 第48号, 137-154(2009).